

一般社団法人日本コンクリート防食協会

下水道施設の新たな腐食や劣化の対策を



会長 三品 文雄

下水道施設の防食は新たな時代を迎えています。硫化水素による処理施設や管路施設の防食が始まって30年が経過しました。防食技術もどんどん進化し、今では50年対応技術も登場。

しかし、硫化水素以外の新たな腐食劣化も明らかになってきました。有機酸による水中部の腐食劣化です。これには、日本下水道事業団のマニュアルも対応。今後当協会や土木研究所、日本下水道事業団との連携による対策が実現。今後のコンクリート対策が可能になり、施設の延命化が加速すると考えています。

またもう一つの腐食劣化（急速な中性化）対策も、下水道施設計画・設計指針と解説（2019）に示されるようになってきました。この劣化は、通常コンクリートのかぶり50mmとしているものをわずか10年で到達する現象で、生物反応槽の気相部と液相部で発生します。当協会ではこの問題も深刻に捉え対応技術の提案を進めています。

維持管理の時代を向かえ、止められない下水を対象とした高度な技術や工法も今後どんどん進化させていきたいと考えております。

JERコンクリート補改修協会

少子化時代へ総合技術で貢献



会長 佐藤 匡良

令和3年度末における全国の汚水処理人口普及率は92.6%に達し、下水道施設のストックマネジメントの充実とともに、自然災害に備えた施設の防災・減災・予防対策も直近の課題となっており、長期的な予算確保が求められています。

同時に「少子高齢化」による建築・土木業界の管理者不足、職人不足も社会の成長課題となっている中、当協会は、下水道関連コンクリート処理水槽等の硫化水素に起

因する硫酸腐食劣化対策として、耐用年数50年を誇るライフサイクルコスト低減型の「ジックボード工法」をはじめ、施工環境に影響を受け難く、工程短縮が実現できる高耐硫酸性モルタル工法など、直近の課題にも目を向け、協会認定工法のラインナップの充実を図っております。

当協会は、下水道関連施設の長寿命化対策に取り組む専門技術者集団として、総合技術力で社会に貢献してまいります。